

け寒風の吹きさらす場所には防風壁を設けることなどである。

台湾産樹種の播種成績について

宮崎県庁林務部 藤川ハ松

九州南部に熱帯性樹種の繁殖を計ることは台湾、沖縄を失った現在あながち無意味なことではない。鹿児島県肝属郡地方では既に試験実用に成功している向もあるのに本県ではまだ見るべきものがない。昭和26年4~5月台湾残留の友人より送附してきたタンニンアカシヤ(アカシヤモリシマ)相思樹、ユーカリ、木麻黄(エウイセリホリヤ)、広葉杉と小生が21年12月引揚の際持帰つたラゴプス、バルサを4月15日~5月20日の間に都城市に播種し毎月一回発芽本数、苗高を調査測定したものを取りまとめ茲に報告する次第である。

発芽期間、発芽本数、発芽率の詳細は略するが、発芽開始期は8~16日で台湾で経験したものと左程差異がないが、発芽終了迄の期間が彼地ではせいぜい1ヶ月位のものがこちらでは1ヶ月半から3ヶ月近くもかゝつた。熱帯性樹の播種は温湯或いは冷水浸漬(タンニンアカシヤは特に熱湯10分間浸漬)などの方法を施し一本発芽をなさしめない、弱小苗が出来て寒害にかゝることが多い。播種期は3月25日乃至4月15日頃迄特に海岸地帯の暖地では3月15日乃至3月末日頃が適当と思はれる。発芽率は台湾での経験結果に比べて30~50%の低率であつた。次に苗高の特に成育良好なるものとして驚異的なのはタンニンアカシヤで11月迄に8尺余根元径6分に達したものがあつた。然し鹿児島県種子島日本香料薬品会社農場の佐々木昇一氏によれば満1年生で高さ12.5尺、径1.7寸、満2年で22尺径2寸5分の生育をしたと聞いている。次にユーカリ、木麻黄、相思樹、バルサ、広葉杉の順で台湾での生長と比べると広葉杉を除いて他は逊色がない。26年10月14日襲来せるルース台風は最大風速50m位であつたが被害状況はアカシヤは多少葉色を損じ、ユーカリは先端の葉が全部ちぎれ、木麻黄、相思樹は葉全体が白蒸け、バルサは損傷多く、広葉杉は小害であつた。斯くて総合すれば風寒害に対し最強のものはタンニン、アカシヤ、次にユーカリ、広葉樹、相思樹、木麻黄、バルサの順である。其後27年春迄に於ける度々の降霜に対し被害のなかつたのはタンニン、アカシヤ、ユーカリ、広葉杉の三種で、相思樹は27年1月頃に落葉し、小苗は枯死したのでこれは地際より折斷したところ4月下旬頃萌芽してきた。木麻黄は苗幹までも全く枯死した。現在アカシヤ、ユーカリ、広葉杉は順調な生育

をなし、相思樹の萌芽の生育は兎角思はしくないようである。

以上の成績から考えると今後当県に奨励しても良いと思はれるのは第一にタンニン、アカシヤ、次にユーカリ、広葉杉、相思樹、木麻黄の順で、バルサは温室内でないと大々敷しいように思はれる。更に筆者はこれらの熱帯樹の寒害を避ける順応方法や肥料試験、稚苗に対する防風帯の造成などについて研究している。

又本年3月上旬台湾残留の日高孝次郎氏及び台湾人同僚の好意によつて送附して貰つた73種の種子を宮崎県南那珂郡福島中学校裏の観光用樹木養生畑に2月中旬及び5月中旬に播種養生して期待している。これらの樹種が遠からず日南海峽は勿論、神社佛閣の境内或は学校官公庁、農家の庭前などに風致と実收をかねて大なる林産資源として採用されるよう努力するつもりである。

支那油桐の品種選定に関する基礎的研究

熊本県林局 日下部 謙 道
工 藤 久 雄

1. 品種選定に関する諸問題

わが国に於ける支那油桐の栽培界で技術上当面している最も重要な問題は優良品種の選定であると思う。既に従来の研究によつて接木や挿木による栄養繁殖が容易であることは知られているし、又実生樹の遺伝性についても母樹の形質が大體伝えられていることもアメリカその他ソ聯などで実験済みである。

ところが優良品種を選び出すに當つては次のような困難性を伴うものであるから早急に決定されない。即ち

1. 隔年結果の傾向が強いこと、それで本質的の結果能力を判定することは困難である。
2. 雌雄の傾向が強い。それで雄性的母樹は結実量が少くともその遺伝性に就いては必ずしも不良であると限らない。
3. 立地條件、肥培條件等によつて結実量が異なり更に含油分も非常に違つて来る。
4. 同じ樹でも結実の豊凶その他結実量の多少によつて含油分が異つて来る。

今回の研究も以上の事實を更に確めたものであるが同じ條件の下個々の供試木によつて含油分に著しい相違があることから含油分を基準として品種